

【 投薬 】**4 1 1 抗ウイルス薬の併用投与（ヘルペス角膜炎）について**

《令和6年12月27日》

○ 取扱い

ヘルペス角膜炎に対する次の抗ウイルス薬の併用投与は、原則として認められる。

- (1) アシクロビル【眼軟膏】（ゾビラックス眼軟膏等）とアシクロビル【内服薬】（ゾビラックス錠等）
- (2) アシクロビル【眼軟膏】（ゾビラックス眼軟膏等）とアシクロビル【注射薬】（ゾビラックス点滴静注用等）

○ 取扱いを作成した根拠等

ゾビラックス眼軟膏の添付文書の効能・効果は「単純ヘルペスウイルスに起因する角膜炎」であり、ゾビラックス錠の効能・効果には「単純疱疹」が、ゾビラックス点滴静注用の効能・効果には「免疫機能の低下した患者（悪性腫瘍・自己免疫疾患など）に発症した単純疱疹」がある。

ヘルペス角膜炎は単純ヘルペスウイルスによる角膜感染症で、上皮型、実質型、内皮型に分類され、再発が多く角膜の知覚低下や角膜癒痕、視覚障害を生じることがある。上皮型については、感染性角膜炎診療ガイドライン（第3版）に、アシクロビル眼軟膏1日5回の投与が原則であるが、抗ウイルス薬の全身投与を条件付きで推奨する旨記載されており、免疫機能の低下した患者や再発を繰り返す患者等、眼軟膏では治療効果が得られない場合は、内服薬や注射薬との併用投与は、有用であると考えられる。

以上のことから、ヘルペス角膜炎に対する上記抗ウイルス薬の併用投与は、原則として認められると判断した。